

平成23年度 島原市行政評価委員会 外部評価（反映状況）

主要事業項目	事業名	担当グループ	内部評価		外部評価	区分	委員
			1次評価	2次評価	3次評価		
特色ある産業づくり	①空き店舗等活用促進事業	産業政策グループ	事業規模の拡充	事業規模を縮小	事業規模を縮小	Aグループ	脇田 安大（座長） 野田 隆義 満井 敏隆 本村 三郎 山下 文博
	②大会・会議等誘致奨励金	観光・ジオパークグループ	継続	継続	継続		
	③島原健康半島構想推進事業	産業政策グループ	事業内容の改善・見直し	事業内容の改善	事業内容の改善		
	④島原市特産品創出事業	物産流通グループ	事業内容の改善・見直し	事業規模を縮小	事業内容の改善		
健康で誇り高く暮らせる「ひとづくり」重視の都市づくり	⑤町内会・自治会運営費補助金等各種団体補助金	政策企画グループ	その他の見直し	その他の見直し	事業内容の改善	Bグループ	山口 純哉（座長） 大野 友道 高橋 勝則 山崎 幹子
	⑥島原市自主文化事業	文化・スポーツ振興グループ	継続	事業内容の改善	事業内容の改善		
	⑦国際親善交流事業	学校教育グループ	継続	継続	継続(拡充)		

評価結果の反映状況

〈特色ある産業づくり〉

担当グループ	評価対象事業名	平成23年度事業コスト(千円)	事業概要	行政評価委員会の意見		反映状況
				評価結果	内容	
産業政策グループ	空店舗等活用促進事業	事業費 5,080	<p>中心市街地の商店街の空き店舗・空き地対策として、不足業種などの新規に出店する事業者に対し、店舗の改装費及び家賃を助成する。</p> <p>○成果指標 ・市内6商店街の空き店舗数 ・商店街通行量(歩行者・自転車)</p>	事業規模を縮小	<p>○人口減少や郊外店舗増加の中で、本事業によって現在の商店街の規模やスタイルを維持することは困難ではないかとみられ、中心商店街の存在意義やあり方を検討することが先決であろう。場合によっては、規模縮小や再開発といった抜本策も視野に入れるべきではないかと考えられる。そうした検討が行われない、あるいは検討の結果が思わしくない場合は、本事業を継続しても「展望なき延命策」に陥る可能性があり、廃止もありうる。</p> <p>○抜本策を打ち出すまでの間、本事業を継続することは差支えないが、その際、入所店舗に対して相談や指導を専門家(商工会議所指導員等)を交えて行うなど、事後フォローの実施を検討すべきである。</p> <p>○なお、成果指標として「空き店舗数」を掲げて成果を上げているように見えるが、一方で閉鎖店舗が空地になるケースも多く、商店街活性化の観点からは「空き店舗・空地」を一体として考える必要がある。「商店街通行量」についても、本事業は通行量を制御できるほどのものではなく、不適當であろう。</p>	<p>○補助対象の内容の一部見直しを実施。(予算減額) ・新規受付を中止</p> <p>【減額前】 6,500千円 → 【減額後】 3,000千円</p>

評価結果の反映状況

〈特色ある産業づくり〉

担当グループ	評価対象事業名	平成23年度事業コスト (千円)	事業概要	行政評価委員会の意見		反映状況
				評価結果	内容	
観光・ジオパークグループ	大会・会議等誘致奨励金	事業費 6,460	<p>観光振興及び地域の活性化を図るため、各種大会・会議・研修会等を開催する団体に対して、島原市内の宿泊施設に宿泊した延べ人数に応じて奨励金の交付を行う。</p> <p>○成果指標 ・参加者数、延べ宿泊者数(数字は述べ宿泊数)</p>	継続	<p>○自己評価では、高評価をもとに「特段の見直し不要」と結論付けているが、当市で開催される大会等は、かつて40件以上であったものが、最近では30件程度に減少している。この事実を鑑み、本事業の評価を行う前に、類似の他の事業も総合し「当市として大会やスポーツ合宿誘致の目標や戦略の計画」を策定すべきである。</p> <p>そのうえで、本事業の役割や、目標達成に資する具体策を検討することが望ましい。</p> <p>○当市は、各種コンベンションに加え、サッカー等のスポーツ合宿の適地であり、さらなる拡大を図る余地がある。そのため、大会等の参加者に改善要望等の調査を行い、施設やソフト面の改善に取り組んでいく姿勢が重要である。</p>	○市の他の類似の事業と併せて、大会、スポーツ合宿誘致に向け総合的に検討を行う。

評価結果の反映状況

〈特色ある産業づくり〉

担当グループ	評価対象事業名	平成23年度事業コスト(千円)	事業概要	行政評価委員会の意見		反映状況
				評価結果	内容	
産業政策グループ	島原健康半島構想推進事業	事業費 2,000	<p>薬膳料理や薬草菓子など、島原の豊富な湧水と島原でつくられる薬用植物の資源を活用した「菓子」、「料理」、「茶」、「加工食品」など商品化に向けた製造開発、薬草普及・情報発信及び薬草栽培育成の取組み。</p> <p>○成果指標 ・宿泊客数 ・薬草加工食品の商品化(菓子、料理、茶)</p>	事業内容の改善	<p>○本事業の目的を、薬膳料理や薬草菓子商品の開発製造、薬草の栽培としているが、販売が拡大しなければ開発や製造は伴わないものであり、最大の目標を販売にする必要がある。</p> <p>○16年に事業を始めて8年が経過しているが、料理や商品開発コンテストにとどまっており、事業が目指す販売・交流による地域活性化を達成する見通しはほとんど立っていない。これは、販売面の具体的戦略を持たないことが原因とみられる。評価書を一読した範囲でいえば、島原のどのような特色を活かした商品を生み出し、どのような手法で売るかといった販売戦略を立て、PRや販売支援に注力すべきであろう。また、薬膳料理は、昨今の健康ブームで成功している観光地も見られるが、当市では開発してもホテル等で活用されていない現状を深く分析すべきである。バス旅行会社等と提携して、薬膳ツアー等を開発するなどの集客努力を行う姿勢も必要であろう。</p> <p>○今般、島原半島『GAMADASU』プロジェクトで、薬草関係も扱うとのことであるが、これを含めて適切な販売戦略を立て、2～3年以内に事業の見通しを付けるべきである。2～3年後に、確たる見通しが立たないようであれば、本事業は廃止すべきである。なお、成果指標に観光客数を掲げているが、薬膳料理を提供していない現状では、事業と成果指標に因果関係は存在せず、適切な指標に改めるべきである。加工商品については、商品化数を指標にしているが、販売金額等の最終的な目標を持つことが求められる。</p>	○島原半島『GAMADASU』プロジェクトとの関連性、役割を整理するとともに、適切な指標の設定に努める。

評価結果の反映状況

〈特色ある産業づくり〉

担当グループ	評価対象事業名	平成23年度事業コスト (千円)	事業概要	行政評価委員会の意見		反映状況
				評価結果	内容	
物産流通グループ	島原市特産品創出事業	事業費 1,643	<p>新たに開発された新商品、又は改良商品の中で特に優れたものについて表彰し、受賞者に対して、アドバイザー派遣や販路拡大のための支援を行う。</p> <p>○成果指標 ・やっちゃんまか大賞（賞金100万円）の該当商品 ・こらかうまか大賞（賞金5万円）の該当商品</p>	事業内容の改善	<p>○本事業も薬草事業と同様、開発に重きが置かれ、販売に対する配慮が薄い。島原の良さをアピールできる商品を開発し、販売面でも支援するよう、意識改革を図る必要がある。</p> <p>○開発を行うことが最終目標ではないので、開発コンテスト1位の賞金100万円を引き下げて2位の賞金を若干引き上げるとともに、販売支援（インターネット販売、県物産協会での販売、販売コンサルタント活用、パッケージ等の開発など）にも資金を回すべきである。</p> <p>市としても、市民への周知などに努力すべきであろう。</p>	<p>○やっちゃんまか大賞の賞金100万円を50万円に見直し。（予算減額）</p> <p>【減額前】 4,371千円</p> <p>→</p> <p>【減額後】 2,468千円</p>

評価結果の反映状況

〈健康で誇り高く暮らせる「ひとづくり」重視の都市づくり〉

担当グループ	評価対象事業名	平成23年度事業コスト(千円)	事業概要	行政評価委員会の意見		反映状況
				評価結果	内容	
政策企画グループ	町内会・自治会運営費補助金等各種団体補助金	事業費 22,910	市からの行政文書の配布・回覧、行事への積極的参加、町内会・自治会内の親睦・融和、環境美化活動、福祉活動、地域文化の伝承などにより、生活をより豊かで潤いのあるものにし、同時に市民主体のまちづくりに取り組めるようにするため、運営補助として交付している。	事業内容の改善	<p>○そもそも、NPO等の町内会・自治会の枠を超えた市民活動が高まるとともに、財政状況が逼迫する中で、地域運営の中に、町内会・自治会をどのように位置づけ、どのような機能を行政が支援すべきなのかについて明確化する必要がある。それを踏まえて、以下の諸点について改善すべき。</p> <p>○不燃物の拠点回収による売上収入など、自らの活動によって自主税源を増やす取り組みも必要。</p> <p>○運営費補助から事業費補助へと考えの下、現行の均等割と世帯数割に加え、事業費割など検討してはどうか。</p> <p>○1つの団体に、市から直接補助したり、町内会・自治会を経由して助成したりと、資金の流れがわかりにくい面がある。各種団体向けの補助について、重複する部分がないか等、精査すべき。</p> <p>○一定の自主性は尊重すべきであるが、手当など経費面に留意し、本来の目的に補助金が使われるよう促していくべき。</p> <p>○当該補助金の交付にあたっては、決算(実績)報告の内容もまちまちである。事業の透明性を高めるためにも改善が必要。</p> <p>○町内会・自治会活動を促進するため、加入率の向上を図る必要がある。</p> <p>○市内7つのエリア単位での支援など、地域としての取り組みを促すような仕組みを検討してはどうか。</p>	<p>OH23年度【予算額 2,120千円】 島原市がまだ地域づくり補助金 ・補助率1/2 上限500千円</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>OH24年度【予算額 7,870千円】 島原市がまだ地域づくり補助金・交付金 【改善】(1,570千円) ・上限500千円、補助率1/2 ・上限100千円、補助率1/2の簡易枠を追加 (審査手続きを簡素化) 【新設】(6,300千円) ・地域コミュニティづくりの新たな枠組みの一環として、地域づくり活動に取り組む町内会・自治会を支援する交付金を創設</p> <p>○町内会・自治会活動を促進するため、加入率の向上を図る。</p>

評価結果の反映状況

〈健康で誇り高く暮らせる「ひとづくり」重視の都市づくり〉

担当グループ	評価対象事業名	平成23年度事業コスト(千円)	事業概要	行政評価委員会の意見		反映状況
				評価結果	内容	
文化・スポーツ振興グループ	島原市自主文化事業	事業費 16,636	<p>市民の文化の向上と啓発を目的に行うもので、良質な公演等を市民に安価で提供するものである。</p> <p>○成果指標 ・自主文化事業入場者(率)のアップ (会場が90%以上の入場者を目標)</p>	事業内容の改善	<p>○市勢振興計画にある「ひとづくり」という行政目的を達成するため、検討の進め方、開催場所の在り方、対象などについて精査のうえ取り組む必要。</p> <p>○他の関連事業と絡めながら、より成果の上がる形を検討していく必要がある。</p> <p>○予算の減額が予定されているが、質を落としても意味がない。入場料をある程度上げてでも、良いものを提供するという方向も考えられるのではないかな。</p> <p>○必要性は一定理解するが、自主文化事業懇談会だけでなく、市民ニーズの把握について更なる努力が必要ではないかな。</p> <p>○現在、こども向けの講演は無料であるが、過大にならない程度に有料化を検討し、有料であっても入場者数を見込めるような講演を選定していくべき。</p>	<p>○料金徴収体制について検討を行う。</p> <p>○市民ニーズの把握に努める。</p>

評価結果の反映状況

〈健康で誇り高く暮らせる「ひとづくり」重視の都市づくり〉

担当グループ	評価対象事業名	平成23年度事業コスト(千円)	事業概要	行政評価委員会の意見		反映状況
				評価結果	内容	
学校教育グループ	国際親善交流事業	事業費 2,583	本市中学3年生を対象とし、夏季休業中に中国(平成21年度までは韓国)を訪問し、上海市内の教育施設等の見学や現地の中学生との交流活動を通して、国際的視野の拡大と国際親善に努める素地を培うとともに、将来の島原市を担う心身ともにたくましい人材の育成をめざす。	継続(拡充)	<p>○事業自体の必要性は非常に高く、コスト面にも留意しながら参加人数を拡充する方向で検討してほしい。 なお、参加人数の拡大の観点に立てば、修学旅行行先を中国とし、助成を行うといった手法も考えられるところ。</p> <p>○地元新聞に体験談が連載され、当事業について皆さんの認識が高まったと思う。英語や中国語などをもっと学びたい場合の受け皿づくりの充実が求められる。</p> <p>○国際交流の推進に賛成。海外旅行の経験は必ず将来に役立つし、その後の受け皿が整備されれば、事業に繋がりが生まれる。</p> <p>○姉妹都市の締結により相互交流などの推進を検討してはどうか。また、上海航路や格安航空の利用なども検討すべき。</p>	○事業の必要性を考慮し、コスト面に留意しながら参加人数を拡充する方向で検討する。 また、国際化の推進を図るため、海外旅行の経験を生かすための受け皿の整備に努める。